

令和5年12月15日
(2023年)

保護者の皆様

千里みらい夢学園
吹田市立竹見台中学校
校長 小林 太郎

令和5年度 全国学力学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「令和5年度 全国学力・学習状況調査」を実施し、2学期に入ってすぐの8月下旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田でも、今回実施した調査結果の概要は吹田市ホームページを通じて公表しております。

この調査は、中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学・英語に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査結果の分析

(1) 国語

<概要>

全体の平均正答率が全国平均を上回っていました。特に「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域での正答率が高く、日頃の学習の成果がよく表れた結果となりました。

領域

話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none">● (成果)「目的や場面に応じて質問する内容を検討する」設問について、良好な結果が得られました。● (課題)どの設問でもおおむね良好な結果が得られましたが、「知りたい情報に合わせて効果的に質問する」設問において少し課題がみられるため、授業の中で他者に質問する機会を設けるなどの実践的な授業に取り組んでいく必要があります。
書くこと	<ul style="list-style-type: none">● (成果)「読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える」設問において、おおよそ全国平均に達し、無回答率も低く、良好な結果でした。◆ (課題)「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」に関する問題の無回答率が比較的高い結果となりました。今後の学習において「書くこと」に対する苦手意識をなくしていくことが求められます。
読むこと	<ul style="list-style-type: none">● (成果)「文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述をもとに考え、要旨を把握する」設問では、全国の平均を大きく上回りました。

	<ul style="list-style-type: none"> ◆ (課題)「文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする」設問において、全国平均をやや下回っており、無回答率もやや高い結果となりました。文章を読んで理解したことを、自らの経験や知識と結びつけて書く練習をしていく必要があると感じました。
<p>我が国の言語文化に関する事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● (成果)「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す」問題について、正答率が高く、よく理解できていました。 ◆ (課題)どの設問も比較的正答率が高い結果となりました。引き続き、古典の文章に慣れ親しんで読んでいこうと思います。

国語科における成果と今後の改善点について

「話すこと・聞くこと」「読むこと」について、特によい結果が得られました。日々の学習の中で、文章を読み取って、表現していくという学習の成果が表れていることがうかがえます。反面、記述式で答える問題は、全国的に無回答率が高くなる傾向があるため、本校でも、自分の考えをまとめて書く活動を、今後も継続して行ってまいります。

(2) 数学

<概要>

「数と式」「図形」「関数」の3つの領域において、正答率が全国値を上回っていました。特に「図形」「関数」の領域での正答率は全国値より10ポイント以上高い結果となりました。しかし、「データの活用」の領域では全国値の正答率とほぼ同じ結果になりました。

領域	
数と式	<ul style="list-style-type: none"> ◆ (成果)ほとんどの設問について、正答率が全国値より上回り、良好な結果が得られました。 ◆ (課題)「考察の対象を明確に捉える」設問において、全国値をわずかに下回っていました。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ● (成果)全ての設問について、正答率が全国値より上回り、良好な結果が得られました。 ◆ (課題)「証明」「証明を読み取ることができる」を問う設問については、無回答率が全国平均より上回っていました。 証明問題を解くことが今後の課題となります。
関数	<ul style="list-style-type: none"> ● (成果)すべての設問について、正答率が高く良好な結果が得られました。 ◆ (課題)「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」設問について、全国値よりわずかに上回っていますが、正答率がやや低く、また無回答率も高いこともあり、今後の課題となりました。
資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> ● (成果)「四分位範囲の意味を理解している」「複数のデータの分析の傾向を比較する」設問については、正答率が全国値よりやや上回っていました。 ◆ (課題)「累積度数の意味」を問う設問について、全国値よりも下回っており、今後の課題となりました。

数学科における成果と今後の改善点について

ほとんどの領域において、正答率が全国値を上回っており、生徒の日々の数学科における学習の成果と努力を確認することができました。しかし、「累積度数の意味」「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる」の2つの設問は全国値を下回りました。数学科で今現在行っている少人数指導やチームティーチングなど、工夫した学習の取り組みを今後も継続し、一人ひとりに対して、よりきめ細かな指導を行ってまいります。

(3) 英語

<概要>

全体の平均正答率が全国平均を上回っていました。「聞くこと・書くこと・読むこと」の領域での正答率が高く、日頃の学習の成果がよく表れた結果となりました。

領域

聞くこと

- (成果)「日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な英語を聞き取ることができるかどうかをみる」設問について、良好な結果が得られました。
- (課題)どの設問でもおおむね良好な結果が得られましたが、「情報を正確に聞きとることができるかどうかをみる」設問において少し課題がみられるため、授業の中で他者に質問する機会を設けるなどの実践的な授業に取り組んでいく必要があります。

書くこと

- (成果)「与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして会話が成り立つように英文を完成させる」設問において、おおよそ全国平均に達し、無回答率も低く、良好な結果

	<p>でした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ (課題)「学校生活(行事や部活動など)の中から紹介したいものを一つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く」に関する問題の無回答率が比較的高い結果となりました。今後の学習において「書くこと」に対する苦手意識をなくしていくことが求められます。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ● (成果)「事実や考えが考えた英文を読み、考えを表している英文を選択する。」設問では、全国の平均を大きく上回りました。 ◆ (課題)「図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する」設問において、全国平均を上回っていますが、無回答率がやや高い結果となりました。日常的な話題について、短い文章の概要をとらえることができるかをみていく必要があります。

英語科における成果と今後の改善点について

「聞くこと」「書くこと」「読むこと」について、よい結果が得られました。日々の学習の中で、文章を読み取って、表現していくという学習の成果が表れていることがうかがえます。反面、記述式で答える問題は、全国的に無回答率が高くなる傾向があるため、本校でも、自分の考えをまとめて書く活動を、今後も継続して行ってまいります。

2. 生活習慣や学習環境に関する調査の分析

<調査の結果>

自分自身のことについて	<ul style="list-style-type: none">● 「自分にはよいところがある」「先生はあなたの良いところを認めてくれる」について、全国値をやや上回っていました。◆ 「人の役に立つ人間になりたい」「将来の夢や目標を持っている」について、全国値よりもやや下回っていました。
学校生活について	<ul style="list-style-type: none">● 「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」「学校に行くのは楽しい」について、全国値をやや上回っていました。◆ 「いじめは、どんな理由があってもいけない」について、全国値よりもやや下回っていました。
家庭生活について	<ul style="list-style-type: none">● 「朝食を食べている」について、全国値とほぼ同じでした。◆ 「毎日、同じ時間に寝る」について、全国値よりもやや下回っていました。
家庭学習について	<ul style="list-style-type: none">● 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」について、全国値を上回っていました。
地域活動について	<ul style="list-style-type: none">◆ 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」「今住んでいる地域の行事に参加していますか」について、全国値よりも下回っていました。

課題について

人の役に立つ人間になりたい、今住んでいる地域の行事に参加していますか、などの項目で、人や地域に関わることに課題があります。キャリア教育や地域行事などを通じて、地域や社会との関わりを深めていきたいと思えます。

3. 今後の取り組み

本調査の各教科の設問ごとの分析や、生徒質問紙からの学習環境状況を重ね合わせて分析した結果をもとに、今後も改善に向けた取り組みを引き続きすすめていきたいと考えます。

学習に対する取り組みについては、学習活動の振り返りについての課題改善に向け、本校においても授業規律・生活規律を確立したうえで、きめ細やかな指導を継続し、学ぶ意欲を高める授業づくり、わかる授業の工夫など具体的な指導法の改善に取り組んでいきます。

家庭学習においては、自分で計画を立てて勉強することについては、例年全国値よりも上回っていますが、SNS等の視聴など、睡眠時間が削られている様子も見受けられます。基本的な生活習慣を確立し、早寝早起きを心がけましょう。自尊感情や自己肯定感を高め、自信を持つことができるよう、取り組みをすすめていきたいと考えております。生徒の自立と幅広い学習の機会をつくるため、今後ともご家庭・地域と連携して教職員一同努力してまいりますので、ご理解・ご協力をよろしくお願い致します。